

「主よ あなただけが」

(詩篇4・1～8)

一、嘆願のよつで嘆願でない

1節の「私が呼ぶとき 答えてください。私の義なる神。追いつめられたとき あなたは私を解き放ってくださいました。私をあわれみ 私の祈りを聞いてください。」は、一見して嘆願の祈りのように見えますが、嘆願ではありません。追いつめられたとき あなたは私を解き放ってくださいました。私をあわれみ 私の祈りを聞いてください。」という、神への信頼の言葉が続くからです。そこには、作者が体験した一つのことではなく、それまでに数え切れないほどの救いを体験したことによって、主への信頼が何層にもなっている姿を見ます。そういうわけで作者は確信を持って、余裕を持って、「私が呼ぶとき 答えてください。私の義なる神」と祈っていることが分かります。このような作者の姿を知るだけで、2節以降に語られていることの内容が理解しやすくなります。

二、空しいものに頼る誘惑

続いて、2節です。へ人の子たちよ いつまで私の栄光を辱め 空しいものを愛し 偽りを慕い求めるのか。」とある

ります。作者が語る「へ人の子たち」は、民衆ではなく、指導的な立場にある人々を指しています。へいつまで私の(＝作者の)栄光を辱め 空しいものを愛し 偽りを慕い求めるのか」と指摘しているからです。へいつまで私の栄光を辱め」とは、一見して作者個人の尊厳を辱めるといふ、いわゆる名誉毀損のような意味にも見えますが、そうではありません。作者は「自分は神の恵みにより、主を信じる信仰者を代表している」という意識を持っていますから、彼らは主を辱めているのです。へ人の子たちが空しいものを愛し 偽りを慕い求める」とは、偶像の神々です。主なる神にお仕えするよりも、自分たちの願いを即刻かなえてくれるバアル神を信じた方が国内は安定すると考える誘惑です。当時は神々と天候がつながっていると考えられていましたから、農作物の豊穡をもたらすバアル神を信じたという誘惑は、非常に大きかったと思われまます。ですが、神の人は語りま

す。それは、空しいものを愛し 偽りを慕い求める」ことであると。そして、3節です。へ知れ。主は自分の聖徒を特別に扱われるのだ。私が呼ぶとき 主は聞いてください。」と。へ知れ、すなわち「知りなさい」と、偶像礼拝に傾きかけている指導者たちに向けて、確信を持って語りかけています。

三、不信心な者たちへの勧め

不信心なへ人の子たちへの勧めは続きます。4節です。へ震えわななけ。罪を犯すな。心の中で語り 床の上で静まれ。」と。ここに「へ罪を犯すな」と語りかけていますから、へ空しいものを愛し 偽りを慕い求め」ようとしている者たちは、主なる神を知っていたと推察できます。作者は、彼らが過ちから立ち返るよう語りかけているのです。対決姿勢によって突き放そうとしているのではありません。何とか立ち返らせたいのです。ゆえに、彼らに対して再考を促す機会を提供しています。それが、4節後半の「へ心の中で語り 床の上で静まれ。」です。さらに作者は、はっきりと語ります。「立ち返れ！」と。それが、5節です。へ義のいけにえを献げ 主に拠り頼め。」と。作者は、今まさに迷い出ようとしている羊を、元の囲いの中に連れ戻そうとしています。

続いて、6節です。前半に「多くの者は言っています。「だれがわれわれに良い目を見させてくれるのか」と。」とあります。へ多くの者」とは、主なる神のみ仕える信仰から迷い出ようとしている人々たちを始め、彼らに同調する人々たちです。彼らは、羊飼いのいない羊のように語っています。へだれがわれわれに 良い目を見させてくれるのか」と。作者は、そういう彼らを、さばいて遠ざけてしまうのではなく、や

さしく語りかけています。それが、6節後半です。へ主よ どうか あなたの御顔を光を 私たちの上に照らしてください。」と。元は、民数記に書かれている「祝福」ですが、よく見てください。作者は、へどうか あなたの御顔を私たちの上に照らしてください」と語っています。民数記に書かれている元の形からすれば、「どうか あなたの御顔を光を 彼らの上に照らしてください」となるはずでした。ここからも、作者は相当な人格者、否、信仰者であって、あわれみと良い実に満ちた人物であったと推察できます。

四、喜びと平安の賜物

最後に作者は語ります。7節です。へあなたは喜びを私の心に下さいます。それは 彼らに穀物と新しいぶどう酒が 豊かにある時にもまさっています。」と。へ穀物と新しいぶどう酒が豊かにある時」とは、当時の人々が味わった最高の喜びの表現なのであります。うが、神のくださる喜びは世において味わう喜びに勝っていると、作者は語っています。

もう一つは、平安です。8節です。へ平安のうちに私は身を横たえ すぐ眠りにつきます。主よ ただあなただけが安らかに 私を住まわせてください。」と。イエス・キリストを信じるならば、平安を、賜物として賜ります。